

GLOBAL TIMES VOL.4

能勢高校のスーパーグローバルハイスクール SGH（平成 27 年度より 5 年間の指定）の取組は、今年度、2 年目の活動に入りました。この事業は、高校生が実際に海外に行き、現地調査などを通して国際経験を積み、グローバルな人材を育てるための研究開発です。

SG 基礎知識講座

1 年生は「産業社会と人間」、2 年生は「総合的な学習の時間」において学年全員が受講し、外部よりさまざまな分野の講師を招き講演やワークショップを行います。グローバルな課題について基礎的な知識を広く身に付け、課題発見・解決能力を向上させます。

SG 重点分野講座

平成 28 年度は、2 年生希望者 11 名が、モンゴルの文化・歴史・社会を重点テーマに、特に「貧困と経済発展」に焦点をあて、大学の教員の指導のもと課題研究を進めていきます。関連分野からの多彩な講師を招き、講演やワークショップなどで様々な角度から課題を探求します。

英語特別講座（プレゼンテーション講座）

ネイティブの講師により英語でのコミュニケーション力を身に付けます。特に使える英語をめざして日常英会話から課題研究発表に向けた英語プレゼンテーションまで幅広く学びます。2 年生 SG 重点分野講座 11 名と 1 年生 SG 重点分野講座 14 名が学年ごとに受講しています。

海外実態調査・モンゴル国立大学等ワークショップ

8 月にモンゴル（首都ウランバートル、セレンゲ県シャーマル郡）に行き、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンなどの活動に触れ、シャーマルの養蜂事業を調査しました。ゲル宿泊体験も行いました。モンゴル国立大学等で英語によるプレゼンテーション（成果発表）とワークショップを行いました。

成果発表・発信

課題研究の成果を英語で発表します。

- 海外発表：8月8日(月) Sukhbaatar ゲルキャンプ、9日(火) Jagalant ゲルキャンプ、10日(水) モンゴル国立大学、NGO 地域支援センター、11日(木) JICA モンゴルにて
- 総領事館訪問発表：10月3日(月) 在大阪モンゴル国総領事館にて
- 中間発表：11月22日(火) 能勢ささゆり学園にて（能勢地域小中高一貫教育研究発表会）
- 最終発表：2月4日(土) 浄るりシアターにて

Super Global 講座

- 基礎知識講座
- 重点分野講座
- 英語特別講座
- 課題研究（海外研修）

モンゴル研修報告

海外実態調査・モンゴル国立大学ワークショップ

8月6日(土)～12日(金)の7日間、海外実態調査としてモンゴル（首都ウランバートルとセレンゲ県シャーマル）を訪問しました。スーパーグローバル（SG）重点分野講座を受講する2年生11名が参加しました。11名は6月から3つのグループに分かれ、「能勢町の紹介」・「能勢高校の養蜂」・「シャーマルの養蜂」のテーマでそれぞれ研究を進め、プレゼンテーションの練習を積み重ねてきました。

まずは、モンゴルの首都ウランバートルから約300km北上し、モンゴル北部セレンゲ県シャーマルにて養蜂の実態調査を行いました。現地の養蜂家の案内で道なき道を進み、見渡す限りソバ畑と吾亦紅が広がる蜜源で巣箱の内などを見せていただき養蜂調査を行いました。この夜は、海外からの観光客も利用することが少ない、ロシア国境付近のゲルキャンプに宿泊しました。モンゴル遊牧民の移動式住居“ゲル”で宿泊する初の体験となりました。





翌日は、シャーマルの養蜂家が集まるマーケットに行き、養蜂家にインタビュー形式でアンケート調査を行いました。養蜂家の皆さんが快く協力していただき、十分な聞き取り調査ができました。

ウランバートルに戻り、モンゴル国立大学にて大学の先生や大学生にお手伝いいただきながら、午前中は調査後の課題研究を進めました。午後は、大学関係者、養蜂家などを前に英語でプレゼンテーションを行いました。

5日目には JICA モンゴル事務所を訪問し、JICA のモンゴルでの活動について講義を受けたのち、英語でプレゼンテーションを行いました。その後、バヤンズルフ区第92学校を訪問し、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが創設した校内の図書室に、日本で集めた本を150冊寄付しました。また、NGO ジェンダーセンターが支援するトルゴイド地区コミュニティー開発センターで、英語でプレゼンテーションを行う

など、地域の子どもたちや地域住民と交流を深めました。また、本校文化祭チャリティー活動での収益を、子どもたちの本の購入のために寄付しました。

JICA が進める地域おこしのための養蜂活動（国際農林業協働協会（JAICAF）が実施）の調査、および、ウランバートルでの NGO 訪問、支援活動、支援状況の調査などを行うことができ、当初の目的を上回る活動ができました。



講座と講師の紹介 (Lecturers)

● 1年 SG 基礎知識講座

第1回 『バックパッカー』～世界を旅して～

●小早川 勝平 さん (元青年海外協力隊員)

6月6日(月)、バックパッカーとして世界を放浪したこと、フィジーでの青年海外協力隊の経験、海外での地雷撤去の仕事、フランスのマルセイユと能勢を栗で繋ぐ活動について講演していただきました。



第2回 『児童労働』～世界の児童労働問題を考える～

●中島 早苗 さん (NGOフリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) 代表理事・事務局長)

6月20日(月)、カナダで FTC が創設された経緯や世界の貧困、児童労働の状況について、お話いただきました。また、ワークショップを行い、その大変な状況を感じ取ることができました。



第3・4回 『世界で活躍する NGO “オイスカ”』～NGO の果たす役割「地球環境保護活動・異文化理解・国際交流」～

●清水 利春 さん (オイスカ関西研修センター所長)

6月30日(木)、7月11日(月)、地球環境を考えながら「教育と開発」を促進する国際 NGO「オイスカ」の国内外での幅広い活動と国際 NGO の役割についてお話いただきました。



● 2年 SG 基礎知識講座

第1回 『地域おこしとグローバル化 2』～栗でつながる能勢とフランス～

●小早川 勝平 さん (元青年海外協力隊員)

4月21日(木)、小早川さんが昨年、南フランス マルセイユ近郊の都市コロブリエールを訪問したときの栗にまつわる話を伺いました。能勢の特産品である栗を活用した町おこしを考えるきっかけとなり、グローバルな視点からローカルな課題を考える意義深い時間となりました。



第2回 『外国文化を知る・国際理解のために』～日本に暮らす外国人について知る～

●河合 大輔 さん (箕面市国際交流協会職員)

6月29日(水)、箕面市国際交流協会の活動や日本で暮らす外国人についての講演・ワークショップを実施しました。異文化理解や多文化共生について学習しました。





第3回 『フランスでの生活と仕事について』

●ウゼ・カトリーヌさん、加納 さやかさん、エマさん（フランス マルセイユ在住）

7月13日(水)、フランス マルセイユ在住のウゼさん、さやかさんより、フランス全般について、マルセイユの歴史・文化・習慣・高校生の実情などをお話していただきました。また、フランス人には親日家が大変多く、日本の良さを再確認する良い機会となりました。さやかさんの娘さんでバイリンガルのエマさん（小学3年生）が時々通訳し、フランスの学校生活を紹介してくれました。

●2年 SG 重点分野講座

第1回 4月13日(水) SG重点分野講座オリエンテーション

第2・3・4・7・10・13・15・16・19・22・23 課題研究講座

『モンゴルの文化・歴史・社会』～貧困と経済発展～

●今岡 良子 さん（大阪大学言語文化研究科准教授）

4月20日(水)より「スーパーグローバルスタディー(SGS)」にて、『モンゴル 貧困とストリートチルドレン～母親の自立と子どもたちの教育～』をテーマに、ウランバートルのマンホールチルドレンやセレンゲ県シャーマルの養蜂について課題研究を進めています。講義やワークショップを通して、グローバルな課題に対してローカルな視点で捉える力、またチームワークやリーダーシップが育まれています。



第5・21回 5月21日(土)、7月30日(土) SG重点分野講座(1, 2限) 課題研究

第6回 『モンゴル養蜂振興による所得向上プロジェクト』～JICA 草の根技術協力事業、JAICAF の役割～



●干場 英弘 さん（養蜂専門家・元玉川大学教授）

●西山 亜希代 さん（公益社団法人 国際農林業協働協会 (JAICAF) 職員、プロジェクトマネージャー）



5月21日(土) 3, 4限、干場さんから養蜂専門家としての活動やモンゴルでの養蜂指導について学び、西山さんからは都市と地方の格差が拡大しているモンゴルの状況を学びました。JICA 草の根技術協力事業として、養蜂をモンゴルの地方住民の生活改善のために活かすプロジェクトについて学習しました。

第8・9・14・17・18・20回 『日本・世界の養蜂について』

●脇谷 英征 さん(本校農場技師)、松田 嘉織 さん(本校農業科教諭)

ハチの種類、習性、養蜂について詳しく学び、本校農場の養蜂場にて、ハチの巣箱を開けて、西洋ミツバチの観察や養蜂の作業を行いました。モンゴル訪問前には実際にハチミツの採集・ろ過・瓶詰めを体験しました。



第11回 『グローバルに生きるということ』



●斉藤 俊幸 さん（地域再生マネージャー）

6月15日(水)、国内外約300ヶ所のまちづくりに携わっておられる斉藤さんが取組んでこられた数々の事例を、写真と共に紹介していただきました。地域再生のポイントは、セレンディピティ、つまり‘創発’と‘情熱’であることを学びました。

第12回 『世界の児童労働やストリートチルドレンについて考えよう』

●中島 早苗 さん（NGOフリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) 代表理事・事務局長）

6月22日(水)、FTCJの取組を知り、モンゴルの首都ウランバートルのマンホールチルドレン、路上での労働や生活を強いられている子どもたちについて学び、ワークショップを行いました。



●3年 SG 基礎知識講座

第1回 『内閣府から東日本大震災後の陸前高田市副市長へ』～復興での取組をグローバルな視点から捉えて～

●久保田 崇さん（立命館大学公共政策大学院 公務研究科 教授）

6月16日(木)、内閣府職員時代に英国ケンブリッジ大学に留学。震災直後、陸前高田市副市長に就任。5年の任期を経て現職。内閣府の仕事から海外生活、震災復興まで、グローバルな視点で多彩



な経験を語っていただきました。

英語プレゼンテーション講座



●ティモシー カーン さん(カナダ出身 関西学院大学・大阪産業大学講師)

幼少期より日本とカナダを往来して育ったため日本語と英語のバイリンガル。大学では英語の講義はもちろん日本語で文化人類学などを教えている。

●ロバート ノーマイル さん(イギリス出身 専門学校講師)

リヴァプール大学を卒業後、オーストラリアで勤務経験を積んだのち、来日。英会話スクールで英会話講師、中学校、高等学校でのALTや専任講師、専門学校での英語講師を務める。



●今中 重美 さん(観光通訳ガイド・宿泊農業体験 WWOOF 実践者)



能勢で外国人向けに農業体験をすることで宿泊を提供する「ウーフ (WWOOF)」を実践している。能勢の活性化のために地道に活動をしながら、世界に能勢を発信している。*「ウーフ (WWOOF)」とは、World Wide Opportunities on Organic Farm(世界に広がる有機農業の機会)の略で、全世界にネットワークを持つ。

校外学習・国際交流

■姉妹校アスンタ高校 初の来校 相互交流始まる

6月1日(水)、姉妹校であるマレーシアのアスンタ高校から生徒32名、先生6名が初めて、能勢高校を訪問しました。アスンタ高校生は、今年1月に修学旅行で交流した3年生生徒と来年1月に交流する2年生がおり、本校3年生は再会を果たし旧交を温めました。また、2年生はすでに互いにメール交流を始めており、来年1月の修学旅行本番を待たずに対面することができました。全校あげて歓迎式典を行ったあと、授業体験、昼食交流、2年生の歓迎交流での浄瑠璃体験、放課後の農場見学など、丸一日両校生徒が交流活動を行いました。修学旅行での再会を楽しみに、本校をあとにしました。



■京都平安神宮で観光ガイドにチャレンジ!(大阪国際大学ワークショップ)

6月18日(土)、英語プレゼンテーション力を向上させるため、2年SG重点分野講座を受講する生徒11名と留学生のジーンが、高大連携校である大阪国際大学のESS部員と一緒に英語で平安神宮を外国人観光客に案内しました。午前は大学生と自己紹介や簡単な英会話レッスンを行い、午後からは本校生徒2~3名と大学生1~2名によるグループに分かれ、平安神宮の門前で積極的に外国人観光客に声を掛け、英語観光ガイドに挑戦しました。観光客に喜んで貰い、日々の学習で養った英語プレゼンテーション力やコミュニケーション力にさらなる自信を付けることができました。



■NHK「おはよう関西」で放送されました!

6月29日(水)、NHK 総合テレビ「おはよう関西」にて本校のSGHの取組みが紹介されました。

~大阪の小さな町の公立校が国の「スーパーグローバル高校」に選抜! 能勢高校の挑戦。~ (NHK 番組HP から)



■公立鳥取環境大学英語村を訪問しました!



7月12日(火)、2年SG重点分野講座生徒11名と留学生のジーンが公立鳥取環境大学を訪問しました。午前、大学英語村にて英語で自己紹介をした後、ギニア出身のエマニュエル先生による地理学のクイズ、スーダン出身のサラ先生によるクッキー教室に参加し、楽しみながら英語を学びました。午後は、中橋文夫教授ゼミにて、ゼミを専攻している学生たちによる熊本地震調査の報告を聞き、その後、角野准教授から内モンゴルの土壌についての講演をしていただきました。